

◆2017年2月16日（木）午後5時半から



京都市岩倉図書館

「宇宙大冒険」を開催しました。第6回天体天文教室

—京都産業大学神山天文台サポートチームのご協力により、この行事が実現しました。—

8月の「天体天文教室—発見！宇宙のふしぎ—」に引き続き、京都産業大学の学生による天体シミュレータを使った宇宙の神秘の紹介や天体望遠鏡による天体観察などの天体観望会を行いました。

今年は雪の日が続いていましたが、天気は晴れ天体観察への期待が高まりました。しかしながら、夜は薄曇りとなり観察ができるか心配しましたが、金星をみんなで観察することができました。



スタッフの紹介からイベントがスタート。初めに惑星のスカートを履いたお姉さん二人で宇宙に関するおすすめ本の紹介、惑星や宇宙のお話の絵本を読み聞かせてくれました。子供たちも知っている惑星が出てきてしっかり参加していました。



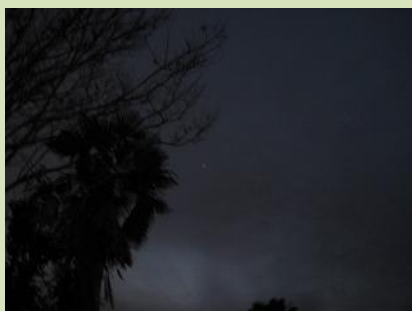
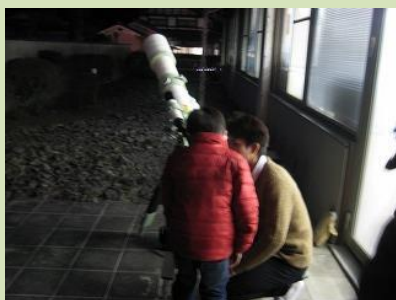
館内でのパソコンを使った天体シミュレーションでは、夏の大三角（ベガ、アルタイル、デネブ）から、冬の大三角（ベテルギウス、シリウス、プロキオン）、そして冬のダイヤモンド（シリウス、プロキオン、ポルクス、カペラ、アルデバラン、リゲル）へと移動し、説明のお兄さんと一緒に復唱しながら星の名前を覚えました。その後、地球から宇宙旅行が始まり、天の川などの銀河を巡り無事地球に帰還。星のことに詳しい子供たちも多く、質問するとすぐに的確な答を返すなど、説明後も熱心な質問が寄せられました。当日は見られなかった月の写真の展示もあり、小さな子供たちも大喜び、実際に見る星の観察に期待が高まりました。



夜空もすっかり暗くなり、野外で屈折望遠鏡を用い金星を観察。行儀よく並んだ子供たちが順に望遠鏡をのぞいていきました。当日の金星は三日月のように欠けていて、金星も月のように満ち欠けすることを初めて知ってビックリしていました。

※金星は、英語名ではビーナス、ギリシア神話ではアフロディーテのことで、ローマ神話の美と愛の女神です。

地球から見ると太陽、月の次に明るい天体であり、夕方や夜明けによく目立つので、宵の明星、明けの明星ともよばれています。



絵本コーナーでは、惑星の正しい順番を並べる模型パズルにも挑戦。熱心に質問する姿も多く見かけられました。最後に天文台や科学館を、より興味をもった子供たちに紹介してもらいました。特に京都産業大学の神山天文台には日本でも有数の望遠鏡があり、一般公開日もありますので、一度足を運んでみてください。



子供たちからは、めっちゃ楽しかった。星がきらきらしてきれいだった。宇宙のことをいっぱい知ることができてうれしかった。保護者の方からは、子供が夜空を見上げるようになったりして、興味を持てるきっかけとなった。金星が満ち欠けすることが観察でき、さらに宇宙に興味を持ってくれたと思う。学生のお兄さんやお姉さんが親しみやすく、分かりやすく説明してもらい、子供たちも生き生きと学んでいたのが印象に残りました。実際に望遠鏡で星を見る機会が少ないので、良い経験ができました。等の感想をいただきました。

この日の参加者は小学生だけでなく、幼児そしておとなの参加者も多く、久しぶりにわくわくと知的好奇心を刺激される時間を過ごせました。夏はシミュレーションだけでしたが、実際に星を観察するという体験はやはりかけがいのないものだと思います。

参加者のみなさん、ご協力いただいた京都産業大学神山天文台サポートチームの学生のみなさん有難うございました。来年もよろしくお願いいたします。

2017.2.16 京都市岩倉図書館